

歴史を歩く50

（近世以降の行政の中心となった地域（馬場・城内）
 牟田地を埋め立てて発展した商業地（三文字地区））④
 おおさきの歴史を旅してみませんか⑬⑯

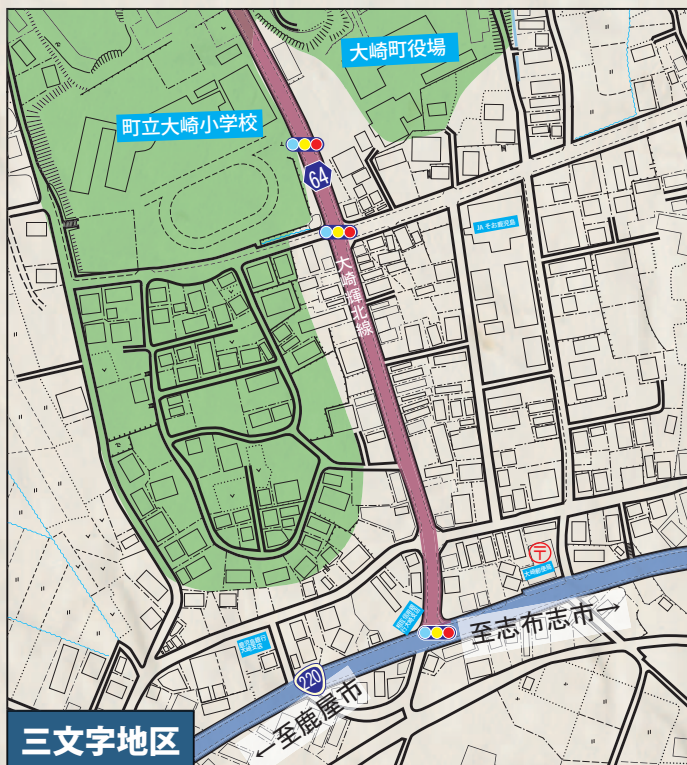


▲中央通り周辺の航空写真

11 三文字商店街の歴史

明治36年の大崎百引牛根線が開通した時、宮地善五郎氏が三文字交差点の牟田地（泥湿地）を埋め立ててそば屋を開業しました。

明治40年頃は、そば屋と郵便局、文房具屋の3軒だけでしたが、大正4年の松岡食品雑貨店の開業を皮切りに、移住してきた人々が広大な牟田地を埋め立て、大崎町の中心的な商業地帯を形成しました。これによって昭和時代には商業の中心が上町地区から三文字地区へ移っていきます。



▲風貴堂2階から見た三文字商店街。人が集まっているのは、大保時計店のテレビを観るため。



▲三文字交差点から中央通りを見た風景

【昭和30年代の三文字交差点周辺の商店街の様子】